

かみす

Pick up

- ▶市内セブン-イレブン全店舗が
神栖市デマンドタクシーの乗降所に!
- ▶かみす市民フォーラム

特集

消防団

ボランティアファイヤーファイター

まちの魅力再発見



茨城県消防ポンプ操法競技大会・鹿行地区大会で準優勝した第56分団。まなごしに自信と誇りを感じます。消防団一いざ入団となると、仕事との両立が難しいという先入観で見られがちです。そうしたイメージを払拭する、新しい時代の消防団について聞きました。

AR

広報かみすが
動き出す



[COCOAR2]

アプリをダウンロードし
表紙にスマートフォンを
かざしてください。
詳細は15ページ

特集

消防団

ボランティアファイヤーファイター

災害発生時にいち早く現場に駆けつける消防団は、身近で頼もしい存在。しかし、そろいのユニフォーム姿を遠くから見ることはあっても、普段どんな活動をしているのか、あまり知られていません。今回は、消防団の活躍に迫ります。

岡防災安全課 ☎ 0299-190-1149



第69回茨城県消防ポンプ操法競技大会・鹿行地区大会で準優勝した第56分団

昔も今も地域防災の要

消防団は、地域防災の要としてなくてはならない存在。消防署に勤務する消防士とは違い、本業を持ちながら活動する市民であり、非常勤特別職の地方公務員という身分です。

その歴史は古く、江戸時代に八代將軍徳川吉宗の命により江戸南町奉行大岡越前守忠相が作った町火消し「いろは四八組」が始まり。その後、「消防組」「警防団」を経て、昭和22年に「消防団」となりました。

神栖市には女性消防団員5人を含め、1049人(平成30年4月1日時点)の消防団員がいます。実は消防団の役割は、消火活動だけではありません。平成27年9月の関東・東北豪雨では、大雨による浸水被害を防ぐための土のう積みや、危険箇所への警戒に奔走しました。

憧れのカッコいい存在に



消防団はこうした重要な役割を担っていると分かっていても、いざ入団となると「活動は大変そうだし、仕事との両立はムリ」という先入観で見られがちです。そうしたイメージを払拭し、「新しい時代に合った、



金本消防団長

みんなが憧れるようなカッコいい消防団を目指したい」と神栖市消防団長の金本吉明さんは強調します。

「昔は、地元の消防団に入るのが当たり前でした。しかし、今は全国的に消防団員が減ってしまい、神栖市も例外ではなく減少傾向にあります。その一方で全国には、山岳地域で機動力を発揮する赤バイク隊や、大勢の女性団員が活躍する消防団など、特徴ある取り組み事例が数多くあります。神栖市でも消防団員を確保するため、服装、装備、活動などあらゆる面で魅力を高めていかなければなりません。

実際の消防団活動は、勤務時間中に出勤を強制することはありませんから、会社勤めと両立することができます。また火災現場では、消火はプロの消防士に任せ、私たちは安全な場所から支援を担い、ケガや事故



がなく活動することを最優先として
います。
消防団は時代に合わせて変化して
います。まずは市民の皆さんに、今
の消防団の姿を正しく理解してほし
いと願っています」

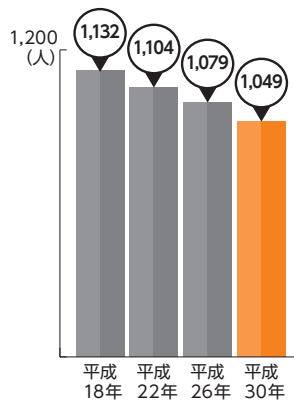
災害時に地域密着で活躍

消防団の活動は幅広く、大きく災
害時と平時に分けられます。

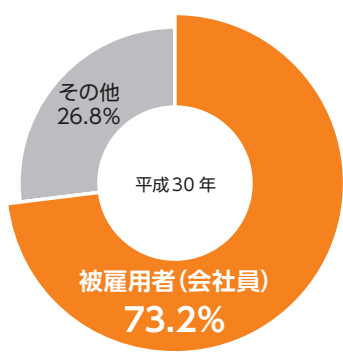
災害時とは、火災、地震、台風や
豪雨による風水害、水難事故など。
このような緊急時こそ、地域密着の
消防団が力を発揮します。「どこに
一人暮らしのお年寄りがあるか」最



神栖市消防団員数の推移



神栖市消防団員の被雇用者(会社員)比率



寄りの消防水利はどこにあるか「浸
水の警戒ポイントはどこか」など、
地元を知り尽くした消防団員が、市
民の生命と財産を守っているのです。
「火災の場合、鎮火後も地元の消
防団が現場に待機し、再び火が出る
恐れがないか念には念を入れて警戒
します。私が神栖市の消防団を誇り
に思うのは、夜中の火災でも大勢の
消防団員が駆けつけるところです。
自分の住むまちは自分たちで守る、
という消防団魂を感じます」と金本
団長は胸を張ります。



① 消火栓を確認し、ポンプ機を設置



② 消火栓と吸水管をしっかりとつなぐ



③ 放水して異常がないか確認



④ 使用したホースを乾かす

日頃から地道に備える

平時の活動で、地味だけれど重要なものとして毎月の水利点検が挙げられます。これは、火災発生時に消火栓から水が供給されるかどうか確認するもので、消火栓にホースをつないで実際に放水してみます。この水利点検は、機器の扱いに習熟するための大切な訓練の機会にもなっています。同時に消防車の装備の点検や掃除も行ない、いざという時の出動に備えます。



規律礼式の訓練

規律礼式などを身に付ける総合統一訓練は、いつもは個別に活動している各分団が集まり、交流を図る貴重な機会。災害時には隣接する分団が協力して活動することも多く、ス

ムーズな連携のためにもコミュニケーションを取ることは重要です。

ほかに、冬の夜警、地域行事の警戒、土のう作りなど消防団の活動は多岐にわたります。「花火大会の警戒は、毎年地元の分団が担当している」と、その消防団員は家族で花火を見に行くことができせん。そのため近隣の分団が持ち回りで担当するようにしました。また、数年前から海岸清掃にも参加。消防団は水際の監視も担っているため、日頃から海岸の様子を知っておくことは重要です」と話す金本団長。特定の分団に負担が集中しないよう配慮しています。

防災意識を高めるために

多くの市民とふれあう機会としては、市の防災訓練などがあります。

10月28日、神栖第二中学校区を対象に実施した洪水避難訓練では、消防団員、消防署員、神栖市婦人防火クラブなど、地域防災を担う皆さんが集結。近隣の市民が、安全な避難経路を確認しながら近くの避難場所へ徒歩で避難しました。平泉コミュニティセンターでは、応急手当訓練、土のう作り体験、防災グッズの展示、



放水時の機器操作

非常食の試食、講演会などを実施。市民の防災意識を高めました。

金本団長は、女性消防団員の活躍に期待を寄せています。「災害現場での後方支援や、イベントでの啓発など、女性特有の優しさやきめ細かさを生かせる活動もたくさんあります。より多くの女性の皆さんに、消防団に興味を持ってもらえたら、と考えています」

また、消防出初式は消防団員の晴れ舞台。神之池への一斉放水や、約60台の消防車両の行進は圧巻です。もう一つ、消防ポンプ操法競技大会も活動の励みであり、大きな目標となる催しです。



保存食のアルファ米と豚汁を試食



防災グッズの紹介



土のう作り体験



消防団の衣装を着てハイ、ポーズ!



AEDを使った応急手当訓練

交流と協力で防災力アップ

このところ日本各地で、広範囲に被害をもたらす大規模な自然災害が相次いでいます。神栖市消防団も、大規模災害に備えて広域での活動がますます重要になると金本団長は考えています。

「いつまた、千年に一度の大規模災害が発生するか分かりません。予測できないからこそ、日頃の備えが重要です。茨城県消防協会では、例えば水戸で発生した災害に神栖から駆けつけるといいうように、広域連携の体制について検討を進めています。さらに、茨城県消防協会鹿行支部(神栖市・鹿嶋市・潮来市・銚田市・行方市)の各団長は以前から親睦を深めてきましたが、今後は消防団員同士が交流する機会を増やしていきたいと考えています」

来年は、第70回茨城県消防ポンプ操法競技大会・鹿行地区大会が神栖市で開催されます。各市を代表する精鋭たちが集まり、規律の徹底、キビキビした動作、素早く確実な放水などを競い合います。地元開催とあって、消防団員の士気も高まっています。訓練の成果を間近で見る絶

好のチャンス。皆さんもぜひ大きな声援を送ってください。

災害に強いまちをつくるには、地域住民の絆と協力が欠かせません。「今後も多くの市民に、消防団活動に目を向けてもらえるよう努力していきます。市民の生命・財産を守るため、一緒に活動しましょう!」と、メッセージにも熱がこもります。興味のある方はお問い合わせください。

分団長インタビュー

第14分団長(居切) 菅谷 裕司さん



市民から頼りにされるよろこび

幼い頃から消防士に憧れていたもので、消防団に入ることは私にとって自然な流れでした。「地区のためになるから」と両親も賛成し、協力してくれています。また、勤務中は消防団からの急な呼び出しはなく、仕事と無理なく両立できています。

活動で一番印象に残っているのは、今年の10月13日に出場した消防ポンプ操法競技大会・鹿行地区大会。出場に備え2カ月前から、仕事後の夕方2時間、一日おきに練習。最初は大変だなと感じましたが、基本動作や器具操作が上達するにつれて面白くなり、団結力も強くなりました。大会当日は、緊張しながらも練習の成果を発揮し、敢闘賞を受賞。貴重な経験ができました。

消防団員としてうれしいのは、地域の皆さんが「頑張ってくれよ」「よろしく頼むぞ」など励ましの言葉をかけてくれること。「いざという時に自分たちも手伝えるよう、教えてくれないか」と申し出てくれたこともあり、感激しました。

14分団の仲間、「自分たちが先頭に立って地域を守る」という使命感を持って活動しています。今では消防団活動は自分にとって完全に生活の一部。今後も、自分がやれる限り活動し続けます。

